



建築人

9

2013

大阪ホンマもん



東京の御茶ノ水駅を降り、駿河台下へと下る坂の途中にある明治大学の手前を右に折れ、西村伊作が創設した文化学院の校舎を通り過ぎてしばらく進んだ先の、再び神田川沿いの風景が開ける直前の左手の狭い崖地の上に、紫色の特異な形をした彫刻のような建物が見えてくる。これが、フランス語の語学学校として一九一三年に創設されたアテネ・フランセの新校舎である。

設計したのは吉阪隆正（一九一七～一九八〇年）、早稲田大学助教授の立場で一九五一年から翌年にかけてフランスへ留学し、ル・コルビュジエのアトリエに学び、帰国後は、吉阪研究室を開設して、教育の傍ら精力的な設計活動を進めていた。実は、吉阪自身も、このアテネ・フランセに通い、創設者のコット先生のクラスに出席した卒業生の一人だという（『近代建築』一九六二年六月号）。また、二代目校長の松本悦治（一九二〇～二〇一二年）もコットの教え子だった。さらに、近くには、吉阪の手がけた日仏会館（一九五八年／一九九五年解体）が竣工した直後でもあった。おそらく、こうした縁から設計を依頼されたのだろう。建物が完成した際、吉阪は、設計意図について、次のように記していた。

「外国語を教える各種学校であるという分類から、一般には授業料による金儲けの手段という経営者側の考えと、要は語学を覚えればいいので愛校心などはどうということなくすむ授業者側の気持とが合して、とにかく必要な生徒数が入る教室さえつくればよいと考えられがちである。そこは記念建造物でもなければ、豪華さを楽しみに来る宮殿でもないのだと思われる。（中略）しかしアテネ・フランセの場合、その創立者のジョセフ・コッ

ト氏の遺志があった。あくまでも自由独立な機関として、フランス語と文学の楽しみを人々に伝えるということにあった。（中略）こうした目標の違いは当然デザインの上にもあらわされなければならぬ。これを施工者にも職人の一人一人にも伝えなければならぬ。経営者と同じくらい授業者へも「配慮」するということ態度も生まれ、社会に対してもその意のある所を呼びかけなければならぬ。いわけである。ぜいを尽くすというのではないが、コット氏の記念であり、楽しい雰

記憶の建築 松隈 洋 アテネ・フランセ 1962年 学ぶ楽しさを醸し出す造形力



北側から見る建物全景



増築された搭状の階段室の内部

としたのだ。それでも、窮屈な敷地と求められた機能、厳しい予算は、けっして良い建築を生む条件ではなかった。しかし、実際に訪れてみると、単調さやローコストとは無縁の、まさに学び舎としての楽しい雰囲気がい内外共に醸し出されている。何がそれを生み出す原動力になったのだろうか。吉阪は、設計の根底に流れる考え方の中に、「不連続統一」と学生たちが命名した方法が自覚されていたと記している（『建築』一九六二年六月号）。それは、建築の

「しばしば、ル・コルビュジエから、「これから建築がはじまるのだ」「これが建築を決めるのだ」という言葉を聞かされた。それはおおむね設計図が一応完成した時に発せられる言葉であった。請負者に渡す前のいわば画竜点睛の仕事をいうのだった。私の迷霧はこうして少しずつ晴れてきた。「建築」と「建物」との違いがどこに存在するかを少しばかりわかったような気がした。」（『記者の言葉』『モデュール』美術出版社一九五三年）

「建物を醸し出す必要はない。」（『建築文化』一九六二年七月号）

アテネ・フランセは、戦時下にもその自由な気風を守り通した歴史を持つていた。一時はやはり時代に屈しなかった西村伊作の文化学院に身を寄せた時期もあったという。だからこそ、吉阪は、そうしたコットの不屈の志を受け継ぐ形を校舎に与えるべく、単なる機能の充足を超えて、自由に学ぶことの楽しさを醸し出す造形を指そう

各エレメントが、「それぞれ十分に自分の存在を発言できるような形や肌や色にしながら、互いに調和を保つということ」であり、「床、壁、天井、柱、建具等々それぞれの異なる使命を持ち、独自の表現を持つていく」ことによって実現できるものだという。たしかに、この言葉通り、建物はごく単純な平面と断面からできているにもかかわらず、ちよっとした細部の納まりや端部の形、手摺や建具、家具などの独特な姿によって、生き生きとした自由な空気感が生み出

この言葉からは、「建物」が「建築」になるためには飛躍する何かが必要であること、を教えられた吉阪の気づきを読み取れる。この気づきこそ、吉阪マジックを生み出したものに違いない。また、それは、単なる思いつきではなく、膨大なスタディに支えられていくからこそ、ある必然性をもった実在感と親しみやすさを獲得しているのだと思う。この建物は、今もなお、私たちに建築とは何かを快活に語りかけている。

松隈 洋 京都工芸繊維大学教授、博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

阪神・淡路大震災をきっかけに生まれたNPO「まち・コミュニケーション（まち・コミ）」が、東日本大震災の生活再建に地道な活動をおこなっています。18年間の経験から、あくまでも外部者としての自覚をもちつつ、被災地の方々にとことん寄り添い内発的まちづくりに貢献したいと語る、代表理事を務める宮定章さんにその取り組みをご紹介します。

三陸の被災地で見守る暮らしの再建

－阪神・淡路大震災 復興まちづくり支援 18年の経験を生かして－

宮定 章

2000年大阪大学大学院（建築工学）在学中から、まち・コミにて活動を開始。都市基盤整備公団勤務（2003年から2004年）を経て、2012年に神戸大学で学位（工学博士）を取得し、東日本の被災地で活動・調査研究中。台湾淡水鎮に日台の大学生と共に日本の日本の古民家を台湾へ移築（2004年～2008年）。m-comi@bj.wakwak.com



自分の家をつくるため木を伐採する住民



大工に教えて頂きながら日台の学生が造った古民家（台湾台北県淡水区）



聴き取りをする筆者

まち・コミの紹介

当団体『阪神・淡路大震災まち支援グループ まち・コミュニケーション（一九九六年設立、二〇一二年にNPO法人まち・コミュニケーションとなる。以下、まち・コミ）』は、阪神・淡路大震災（一九九五年）以降、神戸市長田区御蔵通に事務所を置く。一八年間現地に常駐し、事務局は、素人ながらも生活再建やまちづくり等に関わることを目指し、若者が集い、時には専門家の応援を頂きながら、生活再建に寄り添いながら活動を継続してきた（1）。ある被災者は、「あなたたちは何もできないことはわかってた。ただ、いつも横にいて、一緒に悩んでくれるだけで心強かった。」という。

私達の経験の一つは、震災により地区の八割が焼失し、まちの存続が危ぶまれる中、住民有志が集まり、なんとかまちを復興させようと、活動を始めたこと。当初の目標は、当地区に戻りたい人を戻そうとすることであった。しかし、密集市街地であった当地区では、震災から一八年を経た今でも震災前に居住や商売を営んでいた人の二七、三%が戻ってきたのみである（2）。そのような復興まちづくりの支援から漏れる人が多く出る状況の中で、住民組織の活動が困難になってくることを経験した。復興事業により、まちは道路と公園が整備され、きれいになった。しかし、地域を訪れる旧住民は、（旧の知り合いもいなくなり）まちは、きれいになったが、生活のにおいがなくなった」とおっしゃられた。そのような過程で、復興事業後も、まちの復興とは何なのか、問い続ける環境が生じた。

内発的まちづくりに向けて「事実の聴き取りから、立ち位置を確認して動く漁村を周りながら、明治から現代までの個人史や地域史を聴き、住民と共に成功体験を振り返っている。人は、自分の生活経験から出てくることを表現するのは大好きで、それが行動になる。「人はルーツを知り、立ち位置を確認せずに安心して歩み出せるだろうか（7）」

そこで聴き取りにより、表現の場をつくるようにしている。そこから、身の丈にあったまちづくりが始まることを願っている。

最近の一つの例をあげると、津波で家が流され親族の家に身を寄せる紳士と、地元住民会議で出合い、会議の数日後、まち・コミは、彼の元を訪れ、四日間連続して聴き取りを続けた。その内容は、前回の会議の振り返りと共に、前回の会議で、誰もわからなかった事項を調べて来、関連情報について、お話しした。そうすると、彼からこれまでの生活再建・まちづくりの話をしてくださり、その後、彼自身の生活再建の経緯とその時々での想いを共に振り返った。その途中から、彼は、興味のあることの数々を話し始めた。森林をずっと整備してきたそうで、森林組合資料など、当事者のみを持っている資料を見せて下さった。それを借り、次の日には、その資料を森林の再生に向けた経緯を視点に、まち・コミでまとめ直して、関連参考書籍と共に持って行った。

その数日後も聞き続けると、徐々に、彼から想い出が出てきた。「昭和八年の津波の時は、電気工事の人が、残った我が家に泊まり込み、復旧・復興活動をしたのを覚えている。俺も、住む場と共に

その経験を通じて学んだ視点から、東日本大震災について、生活再建と復興事業の現状報告と、当団体の活動を紹介する。

東日本での事象（現在）から阪神の経験を結ぶ視点

二〇一二年二月、宮城県石巻市雄勝町の若者が、このままではまちが無くなる」と、神戸まで訪ねてこられた。これまでのまち・コミの経験を踏まえ、すぐに行くべきと、しばらくは、車上生活を覚悟し生活道具を詰め、雄勝町に向かった。雄勝町では、やむなく転出した方も多く、話し合いをしたくても、集まりにくい状況になっていた。防災集団移転促進事業は、従前地を災害危険区域を設定する。よって、従前地にて、かさ上げ現地再建を主張する人がいると、災害危険区域設定ができず、事業の成立が困難になるため、当事者間に、利害関係が生じ、会合を持ちにくい状況であった（3）。

土地を扱う復興事業は時間がかかるため、元の地区に戻りたい」と希望していた人が、時間に耐えられなくなり徐々に少なくなりつつある（4）。

震災前、地区の居住地の大半を占めていた浸水域は災害危険区域であり土地利用に制限がかかり、震災前のように地域としての、居住地がとれないため、皆が住めないまちでどのように復興できるのか、地元住民の中には、まちの将来像を見いだせない者もいる（5）。

まち・コミの東日本での活動

そこで、まち・コミでは復興事業の進捗を追い、地域の方と共有することはもちろんのこと、復興事業メニューだけに、復旧・復興の基地になる場をつくりたい。」と、過去に地域へ貢献したこと思い出しながら、張りのある声で話して下さった。その話に反応し、こちらもいろいろ材料を出したかったが、彼がイメージをふくらませる時間を継続させるため、その日は、そのまま退散した。次の日、神戸での活動のひとつである、まち・コミがコーディネートして、住民とボランティアが建てた古民家移築集会所（8）の写真集を彼に見せると、自分でもできると思ったのか、その翌日から、休み無く山に入り作業を始めた。二日後には、チェーンソーを借りに行った。切った木を運搬するのが大変で、五日後にはロープをどこからか手に入れた。まち・コミもその様子を発信すると、そこに仲間が集って木を切り、山から降ろしている。彼はチェーンソーの免許等を取りに行き、作業小屋を建てる材料の準備の段取りはなんとか整ってきた。「設計できるものはおらんか？」。昔は、大工の元で、地域の人が建設工事をしていたのだから（自分達でも建設できるはず）」と、嬉しそうに話し、自ら小屋を建てるため動き始めた。

また漁村部では、高度経済成長や漁法の変遷により、どのように地区へ、人が戻り、人が出ていったのかを把握した。船が衰退していた時住み続けるため養殖で産業を興した。そこには、時の利、地の利を活かしている。そこに地区の特徴（立ち位置）があるはずである。そこを再イメージすることで、身の丈にあったまちづくり構想を立てられるのではないかと、様々な聴き取りや支援活動を続けている。

はフォローできない地域住民のまちづくりビジョンを考える場をつくるため、現在、二〇日／月、常駐しながら、漁師や農家と共に汗を流しながら、地域の方から生活を学ばせていただき、地域資源を生かした活動を行っている（6）。

【調査・研究】

- ・事業計画の進捗状況の把握
- ・住宅被害調査
- ・雇用（漁業や事業所等）の状況把握
- ・転出入の状況把握
- ・（地区外）移転先への生活再建状況把握
- ・地域住民への生活再建ヒアリング
- ・地域資源発掘（住民ヒアリング、資料の収集、情報収集（NPO、研究者、都市計画コンサルタント））
- ・生活体験（浜で暮らしながら、二四時間漁師の生活を調査し、地域空間の使用の仕方を把握）

【相談】

- ・復興まちづくりへ取り組む、災害ボランティアの相談受入
- ・地域まちづくり組織へのアドバイス（市街地・漁村の住民会議に出席・行政の説明会に出席）
- ・研究者の調査等地元住民とのコーディネート（調査研究・アドバイス）

【受入】

- ・被害状況と東日本復興まちづくりの視察受入（研究者等）
- ・被災地でまちづくりをする方へ阪神・淡路大震災の事例（神戸事務所）の視察見学受入

最後に

被災地の方は、大変な中でも、なんとかできる方法を教えて欲しいと願っている。それをまち・コミは、一緒に探していきたい。

そのためには、阪神・淡路大震災の被災地で復興まちづくりに一八年間関わった経験と、研究成果を活かし、東日本大震災の生活再建と復興事業との関連性を、阪神・淡路大震災のデータから比較し、分析する。

東日本は元より、今後起こりうる人口減少社会における現代の復興まちづくりにおいて、従前地域で生活を継続しながら、地域を運営できる復興まちづくりを実現するため、研究成果を発信・共有したい。読者の皆様からも、建築まちづくりのご指導をよろしく願います。

【参考文献】

1. 住民とボランティアの協働によるまちづくり主体の復興・減災活動（大阪ガス季刊誌CEL二〇一〇年一月）
2. 復興土地地区画整理事業における権利関係・建物用途に着目した再建動向に関する研究
―神戸市御宮西地区におけるケーススタディー―（日本建築学会計画系論文集 第七七巻第六七三号 二〇一二年三月）
3. 石巻市雄勝町の現場から…復興まちづくりの合意形成過程（JURG）199 東日本大震災 住まいと生活の復興住宅白書二〇一一年二月二五日発行
4. ドメス出版 二〇一三年六月二五日発行
都市型災害時における従前居住者用賃貸住宅の入居プロセスに関する研究
5. 阪神・淡路大震災復興土地地区画整理事業地区（神戸市）の事例を通じて―
（日本建築学会計画系論文集 二〇一二年七月）
阿部晃成「復興計画がささる故郷の未来 石巻市雄勝地区の高台移転問題」
6. 活動の詳細は、日々更新中の「まち・コミブログ（http://machicomiblog123.com/）」にて
故郷を再創造するため―激変の地域共同体、集落誌を編む意義は？―
福守さん（神戸新聞 編集委員インタビュアー 二〇一三年）
7. 台日交流古民家移築事業（http://park5wakwak.com/m-comi/project/18/）



営利のみを至上目的とせず、街に極力負荷を与えないことを第一に、5戸の住戸それぞれが、一戸建てのように建つ木造2階建てメゾネット形式の集合住宅の計画である。緑の少ない地域の中で少しでも美しい街並みになるように、建物を道路から2mセットバックさせ、そこに竹林をイメージして竹を密植。アプローチにも落葉樹のやまぼうしを植え、道行く人達の心が和み季節を感じられるようにした。中庭へ歩入ると緑豊かな空間を通過してそれぞれの住戸の玄関へ導かれる。そこでは朝夕のあいさつやベンチでの会話など、住人同士のコミュニケーションの場となる。密集した都市の中で自然を楽しみながら、居心地良く暮らせる集合住宅を目指した。

所在地：大阪府大阪市
用途：集合住宅
竣工：2013.01
構造規模：木造2階建
敷地面積：368.76㎡
建築面積：219.68㎡
延床面積：399.82㎡
写真：福澤昭嘉



敷地は幅員4mの道路に面し、三方も隣家が迫っている。このような環境の中で、広さが感じられる大きな2世帯住宅が求められた。厳しい斜線をかわし、建物ボリュームを確保する為にスキップフロア形式とし、1階のメインフロアを道路面から1.1mあげた。そこから半階分上の部分を道路に面したボリュームとし、その下に駐車場をおさめた。平面計画は、南側をテラスにしたコの字型のコートハウス形式とし、テラスに差し込む光が緩やかに室内に広がっている。ボリューム感を和らげる為、外壁の仕上をコンクリート打ち放しの小叩き仕上げと質感豊かなレンガタイル張りを使い分けている。

所在地：大阪府高石市
用途：専用住宅
竣工：2013.02
構造規模：RC造2階建
敷地面積：274.77㎡
建築面積：160.66㎡
延床面積：296.81㎡
写真：富田英次

INFORMATION

Sponsorship

<p>建築士会からのお知らせ</p>

会員の皆様へ「応急危険度判定士」資格取得のお願い

本会では、大地震発生時に市民の安全を確保するため、全会員の皆様を対象として「被災建築物応急危険度判定士」の資格取得キャンペーンを実施しております。つきましては、判定士の資格をお持ちでない会員の方は、下記の判定士養成講習会を受講され、判定士登録をしていただきますようお願いいたします。

被災建築物の応急危険度判定養成講習会

日程 ①10月23日(水) ②12月18日(水) ③2月19日(水)

時間 13:30～17:00
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
定員 各150名(定員になり次第締切)
受講資格 大阪府内在住または在勤する一級建築士、二級建築士、木造建築士及び建築基準適合判定資格者。
受講料 無料
テキスト代 1,500円(税込み)
※応急危険度判定士登録時に必要な書類
①建築士免許証の写し(1枚)。
②顔写真(カケ2枚。6ヶ月以内。無帽・無背景・正面上半身。縦4cm×横3cm)。

申込先・問合先
一般財団法人大阪建築防災センター耐震部
Tel.06-6942-0190

<p>平成25年度 建築士定期講習</p>
11/30 CPD6単位

建築士事務所に所属の一級・二級・木造建築士で、平成22年度に建築士定期講習を受講された方が対象です。尚、平成22年度以前に建築士試験に合格し、本講習を未受講の方は、平成25年度中に必ず受講してください。

■日時・会場
11/30(土) 9:40～17:30
たかつガーデン
定員200名、会場コード5C-53
■申込締切日
10/31(木)申込書必着
※大阪での申込受付は郵送のみです。必ず簡易書留郵便にてご送付ください。
※定員に達し次第、受付を終了します。
■受講料 12,900円(消費税込)
■申込書配布・受付場所
大阪府建築士会事務局
大阪府建築士事務所協会事務局

<p>平成25年度 既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法講習会》</p>
9/25・10/30・11/27 CPD5単位

平成24年に診断マニュアルの大幅な改訂があり、一般診断法による最新の診断技術を取得していただく講習会です。
日程 ①9月25日(水) ②10月30日(水) ③11月27日(水)
時間 11:00～16:30
会場 大阪府建築健保会館内
定員 各150名(定員になり次第締切)
受講料 会員5,000円 会員外9,000円
テキスト代 7,000円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

<p>平成25年度 既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《限界耐力計算講習会》</p>
12/17 CPD6単位

大阪府マニュアルに基づいて限界耐力計算による診断技術を習得していただく講習会です。
日程 ①12月17日(火)
時間 11:00～16:30
会場 大阪府建築健保会館内
定員 各150名(定員になり次第締切)
受講料 会員6,000円 会員外8,000円
テキスト代 3,500円(大阪府木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル)

<p>一級建築士／設計製図 受験対策講習会</p>
模擬テストⅠ～Ⅱ 9/14、9/21、9/28

有能で意識の高い建築士の養成を目標に、実務にも直結した指導を安価な受講料で行います。
日程 Ⅰ:9月14日(土)、Ⅱ:9月21日(土)、Ⅲ:9月28日(土)
時間 製図実習9:00～15:30、図面講評16:30～18:30
会場 大阪府建築健保会館5階
定員 【各回】40名(申込先着順)
受講料 【各回】建築士会会員12,000円、一般15,000円
※複数模試を同時にお申込みの場合は割引があります。

<p>建築士法にもとづく「建築技術講習会」</p>
平成25年度 第3回 今さら聞けない設備図の基本①
9/20 CPD3単位

建築技術者の方を対象に、模範設備図を使って各設備毎に凡例や図面構成及内容の要点を説明し、設備図面が読めるようになることを目標とします。また簡単な設備の設計手法や最近の設備技術の動向も解説します。
日時 9月20日(金) 13:30～16:15
会場 大阪府建築健保会館6階
内容 ・設備図の読み方(給排水衛生設備)
・設備図の読み方(空調換気設備)
定員 150名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員3,000円、一般5,000円(テキスト代含)

<p>建築士法にもとづく「臨時建築技術講習会」</p>
戸建て住宅の不同沈下を減らすために
9/27 CPD3単位

小規模建築物における不同沈下事故は今も多く、当事者間で解決できない場合は訴訟となり、損害賠償請求金額も高額です。その原因は土質工学の根底に至るような難しいものではなく、見方・考え方を知れば防止できるものです。本講習会では戸建て住宅が建築される地盤の見方・考え方について実例を交えて易しく解説します。
日時 9月27日(金) 13:25～16:30
会場 大阪府建築健保会館6階
内容 ・不同沈下はなぜ起こる?
・不同沈下防止のための要点
・不同沈下防止のための工法とその特徴
定員 100名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員3,000円、一般5,000円(テキスト代含)

<p>第41回 賛助会員分科会セミナー</p>
エネルギーをつかう家からつくる家へ&コンクリートの美観再生+光触媒の活用
9/19 CPD2単位

自邸でエネルギーをつくる家庭用コージェネレーションシステム・豊富でクリーンな天然ガスの将来性について、また、打ち放しコンクリートを新築時のような姿に再生する塗装システム・美観を長期維持する光触媒コーティングについてご提案します。
日時 9月19日(木) 講義18:00～19:30
質疑コーナー&ミニ懇親会 19:30～20:30
セミナー概要

1)家庭用コージェネレーションシステムの概要・事例紹介、豊富でクリーンな天然ガスの将来性について
講師：大阪ガス㈱大阪リビング営業部 今西 毅・合田 敏明
2)打ち放しコンクリートを新設時のように再生・中性化防止+光触媒の効果・活用法について
講師：㈱ピアレックス・テクノロジーズ
取締役営業部長 広瀬 直輝
会場 ㈱内田洋行 会議室
(大阪エビキタス協創広場CANVAS)
大阪市中央区和泉町2-2-2
参加費 (ドリンク・フード付)会員1,500円 会員外2,000円
定員 100名(申込み先着順)

<p>第11回神戸ウォーカー</p>
東播のハイカラ建築を巡る
9/28 CPD6単位

今回は神戸の西、東播の中心地、加古川近辺をふるさと案内人の方のご案内で巡ります。煉瓦造の工場や異人館の様な建物、1935年築の元加古川町公会堂等、そして国宝鶴林寺にも足を伸ばしてみたいと企画しました。神田家洋館とニッケ倶楽部は内部見学できます。多木浜洋館は交渉中です。暑さ対策を万全にして皆様お越し下さい。
日時 9月28日(土) 10:00～17:00予定
集合 AM10:00 JR加古川駅

<p>参加費 2,500円 (昼食別・資料代入場料含む) 交通費は個人負担とします。</p>
<p>コーディネーター 森田茂夫(国際分科会代表・本会理事)</p>
<p>定員 30名(先着順)</p>

<p>建築士の会 「北河内」東高野街道歴史散策 IN 八幡</p>
～京阪八幡市駅前から始まる歴史街道を散策しませんか?～
11/17 CPD2単位(予定)

東高野街道は京から高野山への参詣路として河内国を南北（八幡、枚方、交野、四條畷、東大阪、八尾、柏原、藤井寺、羽曳野、富田林、河内長野）に貫く数少ない歴史街道です。今回はそのうち京都府京阪八幡市駅から松花堂庭園までを市歴史ボランティアの方の案内のもと散策します。
日時 11月17日 13:00～受付
13:30出発～16:30解散予定
集合場所 京阪八幡市駅 改札出口前
参加費 1,000円
(資料・お茶代含む。庭園入園料、バス代は別途)

※懇親会参加費 別途3,500円程度必要
定員 40名(申込先着順)
行程 13:30八幡市駅⇒神応寺⇒航海記念塔⇒高良神社⇒相植神社⇒善法律寺⇒正法寺⇒八角堂⇒16:30松花堂庭園までの約3時間程度
の歴史散策ウォーキングで紅葉も見れるかも知れません。17:00～19:00(バス移動後)懇親会予定です。
※参加証は実施1週間前に出状予定です。

<p>平成25年度大阪府住宅省エネルギー施工技術講習会(第二弾)開催</p>

<p>本会の催し参加申込方法</p>
<p>本会ホームページのWEB申込サイトからお申し込み下さい。FAX・郵送の場合は、事務局にお問い合わせ下さい。なお、建築士定期講習会は郵送のみの受付となっています。</p>

<p>問合・申込</p>
<p>大阪府建築士会事務局 大阪府中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5階 TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103 メール info@aba-osakafu.or.jp HP http://www.aba-osakafu.or.jp/</p>

Administration

<p>行政からのお知らせ</p>

<p>消費税率引上げに伴う住宅取得に係る対応事業者向け説明会(住宅関連税制とすまい給付金に関する説明会)国土交通省</p>
--

住宅取得者への的確な情報提供を行っていただくため、住宅ローン減税の拡充等の住宅関連税制の概要に加え、「すまい給付金」の具体的な内容、給付要件及び申請方法等について、詳細に解説したテキストを用いて説明する事業者向け説明会を開催しています。なお、住宅ローン減税の拡充等と「すまい給付金」制度は、消費税の引上げが行われた場合に実施することとしています。また、「すまい給付金」は平成25年6月26日に行われた与党合意に基づくものであり、今後、政府において消費税引上げの判断も踏まえつつ、最終的な調整が行われる予定です。

開催時期 平成25年8月2日～10月31日
時間 1時間程度
開催場所 330市町村(計339回)
詳細につきましては、HPをご覧ください。
http://jutaku-setsumeikai.jp/
説明会問合・申込 Tel.0120-339-170
受付時間 9:00～18:00
(当面、土日祝日も開設)

すまい給付金HP http://sumai-kyufu.jp
すまい給付金問合窓口
Tel.0570-064-186(ナビダイヤル)
※PHSや一部のIP電話からは045-330-1904
受付時間9:00～17:00(当面、土日祝日も開設)

<p>Others</p>
<p>その他のお知らせ</p>

住宅の断熱設計から断熱施工までのポイントをテキスト・DVD・実物大カットモデルを活用し分かりやすく解説します。
講習会日程 下記日程のうち、いずれか1日
9月:9/5(木)、9/12(木)、9/19(木)、9/26(木)、9/28(土)
10月:10/3(木)、10/10(木)、10/17(木)、10/24(木)、10/26(土)、10/31(木)
11月:11/7(木)、11/14(木)、11/16(土)、11/23(土)、11/30(土)

時間 10:00～17:00
会場 花博ハウジングガーデンセンターハウス2階
大阪市鶴見区焼野1丁目南2番
鶴見緑地駅より徒歩5分【駐車場(敷地北側の第2駐車場(無料))あり】
費用 1,000円(受講料)+別途発行手数料
主催・問合 大阪住宅センター
Tel.06-6253-0073
小角(こすみ)・寺尾
詳細はHP(http://www.shoene.org/)もしくは上記問合先へお問合せください。

<p>大阪の住まい活性化 第1回シンポジウム 自分らしい住まい方を見つけよう RENOvation EXPO JAPAN 2013 関西</p>
オープンングイベント シンポジウム ちゃんと住まいー自分軸で編集する住まい選びー

中古住宅をリフォーム・リノベーションすることで、日々新たなライフスタイルを提案し続ける研究者や事業者たちが、消費者の観点で、「自分らしく住まうことの良さや価値」について、熱く、ディスカッションします。
日時 9月14日(土) 10:00～11:45
会場 大阪市中央公会堂3階中集會室
参加費 無料(事前申込制)
定員 200名(先着順)
申込締切日 9月13日(金) 17:00まで
詳細は以下のHPをご覧ください。
問合 大阪の住まい活性化フォーラム事務局
Tel.06-6210-9707
http://osaka-sumai-refo.com/

CADを活用した図面作成の基礎(JW_cad)

在職者のためのJW_cadの短期講座を実施します。
日時 9月28日(土)、10月5日(土)、10月12日(土)
会場 北大阪高等職業技術専門学校 枚方市津田山手2-11-40
受講料 15,300円
受付期間 7月1日～9月5日
詳細は以下のHP をご覧ください。
http://www.pref.osaka.jp/tc-kiosaka/business/k12gaiyou.htm

<p>なる大阪型健康長寿施策の実現を目指して)</p>
<p>参加費 無料(要申込)</p>
<p>問合 (一社)健康・省エネ住宅を推進する国民会議 Tel.0743-79-9103 E-mail:mik@sickhouse-sa.com</p>

第2回タマホームデザインコンペティション2013

これまで当たり前だと思われていることを一つ一つ点検しながら、良い部分は残し、変えるべき部分は変える。そうした構造的な提案が寄せられることを今回は期待しています。
主催 タマホーム株式会社
募集テーマ 住まいの新しいベーシック
登録募集期間 7月1日(月)～9月20日(金)
作品提出締切日 9月27日(金)当日消印有効
表彰 最優秀賞 1点:100万円&スペインサグラダ・ファミリア見学ツアー(※1名様)
優秀賞 2点:各50万円
入 選 5点:各10万円
タマホーム賞 1点:10万円
佳 作 8点:各5万円

詳細はHPをご覧ください。
http://www.kenchiku.co.jp/tamahome/
登録問合 タマホームデザインコンペティション事務局 (株)建報社内
Tel.03-3818-1961

大振幅地震動と建築物の耐震性評価ー巨大大海溝型地震・内陸地震に備えて(大阪開催)

予測される大振幅地震動とそれに対する建築物の耐震性評価を検討した刊行物の発刊にあわせて講習会を開催します。
日時 9月11日(水) 10:00～17:00
会場 大阪科学技術センター
大阪市西区靱本町1-8-4
定員 130名
参加費 大阪士会会員13,000円(テキスト代含)
テキスト 大振幅地震動と建築物の耐震性評価ー巨大大海溝型地震・内陸地震に備えてー
問合 日本建築学会近畿支部
Tel.06-6443-0538
http://www.aij.or.jp/

<p>映像で見る「昭和史入門講座」</p>

貝塚市半田の「引揚者住宅」の映像を見る「昭和史入門講座」です。他日、現地見学予定。
日時 9月14日(土)11:00～
会場 堺市立東文化会館
(南海高野線北野田駅前)
問合 昭和の庶民史を語る会、明治建築研究会
Tel.072-236-3357

耐震改修促進法のための既存鉄骨造建築物の耐震診断および耐震改修指針講習会(大阪開催)

日本建築防災協会では、「2011年改訂版耐

震改修促進法のための既存鉄骨造建築物の耐震診断および耐震改修指針・同解説」と同会及び(一社)日本鋼構造協会発行の「2013年改訂版既存鉄骨造建築物の耐震改修施工マニュアル」をテキストに耐震診断・耐震改修の推進のための講習会を開催します。
日時 9月30日(月)～10月1日(火)
第1日目 9/30 10:20～16:10
第2日目 10/1 10:00～16:00
(16:00～受講修了証交付)

会場 大阪YMCA会館2階ホール
大阪市西区土佐堀1-5-6
定員 250名(定員なり次第締切)
受講料 21,000円(テキスト代別途)
申込締切期日 開催1週間前
申込・問合 (一財)日本建築防災協会
Tel.03-5512-6451
http://www.kenchiku-bosai.or.jp/workshop/index.html

「免震構造設計指針」改定講習会(大阪開催)

日本建築学会では、「免震構造設計指針」改定版刊行を機に免震構造設計を広くご理解いただくことにより、免震構造がさらに普及発展することを期待して本講習会を実施します。
日時 10月24日(木) 10:00～16:40
会場 大阪科学技術センター8階中ホール
大阪市西区靱本町1-8-4
定員 200名
参加費 大阪士会会員14,000円(テキスト代含)
テキスト 「免震構造設計指針」
問合・申込 日本建築学会近畿支部
Tel.06-6443-0538
http://www.aij.or.jp/

大阪府不動産会館建替えに伴う建設工事の設計者募集

社団法人大阪府宅地建物取引業協会では、大阪府不動産会館の建替えに伴う新会館建設工事の設計業務を委託する設計者を募集します。参加を希望する方は、同協会HPより、公募実施要領等をご確認の上、ご応募ください。HP http://www.osaka-takken.or.jp
【概要(抜粋)】
件名 大阪府不動産会館新会館設計業務
大阪市中央区船越町2-2-1

発注者 社)大阪府宅地建物取引業協会
建物概要 延床面積約2300㎡
業務内容 基本設計、実施設計など
予定工期 設計2013年11月～2014年4月、工事2014年8月～2015年4月
応募条件 日本国内に住所がある一級建築士で代表または所属する企業が一級建築士事務所登録し一級建築士数2名以上※他条件あり
提出書類 参加表明書など※各正1部・副12部、関連資料は同協会ホームページでダウンロード
提出期間 9月17日～30日
※郵送(簡易書留)に限る
問合 社)大阪府宅地建物取引業協会会館建設特別委員会
Tel.06-6943-0621

平成25年度 近畿建築祭

(大阪大会)について(予告)

文責 本会事務局

本会主催の平成二十五年度近畿建築祭(大阪大会)の主な内容をご紹介します。今回は日本一長い天神橋筋商店街を舞台にエクスカッションを企画しました。詳細は、本誌十月号でご案内します。

期日 平成二十五年十二月七日(土)
会場 関西大学天六キャンパス三〇九号室

(記念式典・基調講演・講演会)

基調講演 天神橋筋商店街連合会長 土居年樹氏
「街が危ない、家庭が危ない、店が危ない」
—日本の街づくり、街活かしは誰がする—
講演会 関西大学准教授 橋寺知子氏
(仮 関西大学天六学舎(近代建築)の経緯
エクスカッション)

- ① 天満天神繁昌亭&街歩き
上方落語の唯一定席寄席「繁昌亭」で大阪を楽しもう
- ② 八軒家浜から電気船ツアー&街歩き
世界初のリチウムイオン電気船で大阪を眺めよう!!
- ③ ガイドと共に歩く街歩き
知恵とバイタリテイも日本一!!
ガイドと行く天神橋筋商店街物語
- ④ 住まいのミュージアム&街歩き
平成の天神橋筋商店街から、江戸の街並み、昭和の暮らしへタイムスリップ!!
「講演」花園大学文学部教授(元住まいのミュージアム学芸員) 明珍健二氏
- ⑤ スタンプラリー!!
大阪の肝! こつこつスタンプラリー
大阪の肝である天神橋筋商店街を中心にスタンプラリーで奥深く巡りながら美味しいものを食べ歩いて楽しもう!!

建築相談

建築士の見え方トラブル事例(十三)

住宅の断熱性能

編・文 橋本頼幸

今月の「建築相談」コーナーは、相談員の井戸田精一様に原稿をいただきました。建築基準法では断熱性能についての制限はありませんので、今でも断熱について施工ミスや知識不足が見られるのも事実です。今回は断熱に関する問題をまとめていただきます。

住宅相談で、調査に何うと建築確認済証と検査済証を住宅販売業者や施工者から受領されており、構造的な問題は見つからないが、家の中が寒いという相談と三階が熱すぎて冷房が効かないという相談がありました。

家の中が寒いのは、外壁部、床部の断熱材が薄く、一階壁を解体したところ、壁の断熱材と床の断熱材の間に大きな隙間があり、床下からの空気が壁の中へ入り込む状態で断熱材が施工されていました。

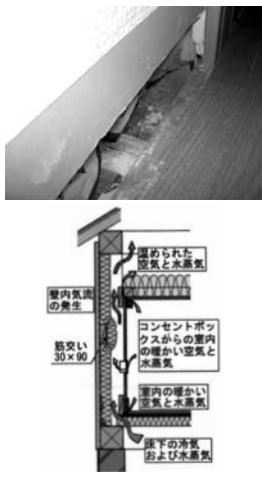
写真1は中木部分の内壁をはがしたところです。床下からの空気が入るのは、根太を用いて床板を張ると図1のように根太の間から空気が壁の中に入りやすくなるため、隙間を詰め込むように断熱材を充填する必要があります。また、断熱材の厚みが薄いと壁内の隙間を積めるのが難しくなります。三階の冷房が効かない家は、メーカーカタログに屋根の野地板下部に通気層と遮熱ボードが示され、断熱材には高性能グラスウール二〇〇mmを使用することを載せてあるにもかかわらず、契約書の設計図書には、野地板のまま、通気層と遮熱ボードはな

く、断熱材も一〇〇mmで記載され、実際の施工も設計図書通りでした。

家の中が寒い家も暑い家も住宅の断熱性能について、建築主が現場の施工状況や設計図書を確認することが難しいため、本来は、設計者に確認してもらわなければトラブルを防ぐことはできません。また、引渡しを受けた後に期待通りの性能が出ない住宅を施工業者に補修を依頼して、そうした施工業者は、正しい断熱方法を理解しておらず、施工法もよく分かっていないのが現状と言えます。

高断熱・高气密住宅は、旧住宅公庫仕様をはじめ、最近の家づくりには、よく採用されています。住宅の熱損失係数を表すQ値は、省エネルギー性能を表す基準で、「住宅の内外の温度差一℃当たり一時間当たり外部に貫流する際の熱損失量を一㎡当たり換算した数値」です。次世代省エネルギー基準でIV地域にある大阪のQ値は、二・七を採用していますが、それでは省エネルギー住宅とは言えません。

今後は、Q値一・〇という数値を目標に住宅設計が進むと本格的な省エネルギー住宅となり、Q値一・〇の世界は、簡単に言うとう東で光熱費が二九万円/年を消費する住宅が、六万円/年になり、小さな冷暖房器具で家全体が快適な環境に生まれ変わります。



大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

昨今、近代建築の価値について考えさせられる機会が多い。例えば、前川國男の設計による京都国会館(一九六〇年竣工)の建替え問題は記憶に新しく、社会を巻き込んだ論争にまで発展した。今回取り上げるのは、今後の活用の方が注目される私鉄最古の駅舎である南海本線浜寺公園駅舎だ。東洋一と謳われた浜寺海水浴場の玄関口に相応しい駅舎として、日露戦争の高揚冷めやらぬ一九〇七(明治四〇)年に旧駅舎から建て替えられた。設計を辰野・片岡建築事務所が手がけ、東京駅に七年先立ち完成した。駅舎は赤い屋根が印象に残る木造平屋建てである。イギリスで二五、一七世紀に流行した「ハーフィンバー様式」で造られた。なお、駅舎は、一九九八(平成一〇)年、国の登録有形文化財に指定された。

浜寺公園駅の周辺環境は大きく様変わりしたものの、今も現役だ。しかし、浜寺公園駅周辺は連続立体高架事業が計画されており、堺市の主催により駅舎及び駅前交通広場のコンペティションが実施された。現在、その移転及び活用方法の検討が進められている。

未来の浜寺公園全体像を見据えた再生計画の為に、この建築の果たす役割はとても大きい。次の一〇〇年に注目したい。

建築人 9 2013

監修 公益社団法人大阪府建築士会

建築情報委員会

編集 建築情報委員会『建築人』編集部

編集人代表 米井 寛

編集人 荒木公樹 飯田英二

筑波幸一郎 中江 哲

橋本頼幸 牧野隆義

事務局 山本茂樹 母倉政美

印刷 中和印刷紙器株式会社

淡路瓦イズム

『瓦ではない瓦』
近畿セラミックス株式会社

<http://www.kincera.net/>

取材：中間伸和／建築情報委員会委員

能・耐寒性能に優れる特性を生かしながら、現代建築に取り入れられるのではないかと開発を進め、3年前にようやく発売を開始しました。

このフルフラット瓦を作る技術はとても難しく、熟練した技能が必要です。本格焼成でありながら反りや歪みの取り除き、地震や台風に耐える為の瓦と一体のツメの加工など、難しい問題をクリアする必要があります。その為、現在アジアで作ることができるのは日本だけです。

この瓦はそのシンプルな外観ゆえに、シンガポールなどアジア各地で、日本建築にとどまらずモダン建築のアイテムとして様々な施設に採用されています。

また、自然環境に対する関心が高まるなか、新

たに、発電する動き巾1mの瓦として平板瓦一体型太陽電池「VISOLA」を株式会社カネカと共同開発を行い商品化しました。これは、屋根材の上に施工する太陽電池と違い、フルフラット平板瓦と一体となり屋根に溶け込みます。

フルフラット平板瓦+太陽光発電の組み合わせで、エコであり、瓦の特性を兼ね備えたシンプルモダンな屋根を作ることが可能になりました。ぜひ新しい発想の建物への採用をご検討ください。

■淡路瓦のお問い合わせ先
淡路瓦工業組合
兵庫県南あわじ市湊 134
Tel.0799-38-0570 Fax.0799-37-2030
info@a-kawara.jp
<http://www.a-kawara.jp/>

400年の歴史を持つ淡路瓦は、「淡路瓦イズム」を通し、これからの時代に社会が必要とする瓦づくりに挑戦しようと考えています。今年も淡路瓦イズムを実践している会社を紹介しています。

瓦屋根は昔から日本家屋に使われてきましたが、現在ではモダンな住宅が増え、他の材料が使われることも多くなってきました。そこで、その新しいデザインに溶け込む「瓦ではない瓦」を作ろうと20年近く開発、進化してきたのが近畿セラミックス株式会社のフルフラット平板瓦「スーパーセラストレート」です。

瓦は多少凹凸があるほうが防水性も良いし作りやすい。しかし、シンプルでフルフラットなフォルムの瓦を作ることが出来れば、昔からの防災機



大正製薬関西支店
竹中工務店 原 哲也、茨木 保、本間隆司、北村仁司

製薬会社のオフィスとして「健康な未来のオフィス」をテーマに、ユーザーや地球環境に健康をもたらす建築を目指した。インターチェンジに面した敷地の優れた眺望を確保し、自然の風や光などを最大限に利用した省エネルギーのオフィスとすることが求められた。建物中央部に地下1階から屋上まで続く外部吹抜け空間を配し、ブーメラン形状のオフィスレイアウトとすることで、眺望に優れた明るいオフィスを実現した。中央の外部吹抜けは上部に広がった形状をしており、執務空間と共用ゾーンを緩やかに分けつつ光と風を取り入れる。その傾きは夏至の太陽高度と同角度とし、夏至の正午には地下1階の車寄せまで太陽光が届く。

オフィスは両面採光で明るく、手動で開閉できる窓で通風が可能である。これは、快適性を高めるだけでなく、災害時にも活動の拠点として機能するためである。外部吹抜けの南に面するバルコニーにはシマトネリコを配し、地下1階の竹林から屋上の薬草庭園まで建物を立体的に緑化している。これにより、どのフロアからも緑を楽しむことができる。緑化とともにミスト設備を設けて、夏季は吹抜けの空気を冷却し、執務空間に涼しい風を取り入れられる。緑化テラスの北側に開放的な階段を設け、木漏れ日の中、快適に階段を利用できるように計画した。緑豊かな潤いのある空間で、従業員の交流と運動が誘発され、明るく健康的に活動できることを期待している。

撮影：古川泰造

■建物データ

建築主：大正製薬 株式会社	規模：地下2階 地上8階
設計：株式会社 竹中工務店	塔屋1階
施工：株式会社 竹中工務店	構造：S造 一部SRC造
所在地：大阪府豊中市新千里西町	敷地面積：2,353㎡
用途：事務所	建築面積：1,268㎡
竣工：2012年7月	延べ面積：11,966㎡

